

令和4年12月27日
乳幼児教育・保育支援課

区制90周年事業 教育総合センターメッセ等の実施結果について

1. 主旨

教育総合センターを拠点に進める各種取組みを広く区民等に発信するとともに、乳幼児期の遊びと学びやSTEAM教育に関する取組みの体験を提供する教育総合センターメッセを実施した。あわせて、区内大学・高校・特別支援学校を対象に、教育総合センターを拠点とした連携取組みの実績報告と意見交換を行ったので報告する。

2. 概要

(1) 日時

令和4年12月10日（土）午前10時から午後4時

※ 午前10時から正午 区内大学・高校・特別支援学校との意見交換会

(2) 会場

世田谷区立教育総合センター（世田谷区若林5-38-1）

(3) 対象者

就園・就学前の幼児、小学校・中学校の児童生徒とその保護者、区民等、公私立幼稚園・保育所等の教員・保育士（合同研修）、区内の大学・高校・特別支援学校関係者

3. 参加人数

一般区民など 延べ約650名（合同研修及び意見交換会の参加者を含む）

4. 主な実施内容

- ◎1階：いろいろな素材でものづくり体験、光と影のアート体験、わくわく運動遊び、STEAM教育講座、特別支援学級の児童・生徒の作品展示
- ◎2階：ロボットコンテストの体験会&プログラム体験、区立小・中学校での学びの実践紹介、教育相談・ほっとスクール城山のPR、区内大学の留学生と交流遊び、「せたけんクイズ」もっと知ろうせたがや、小・中学校・高校で使用する教科書の展示、幼稚園・保育所等の合同研修
- ◎屋外：元気にどろんこ外遊び

5. 教育総合センターを拠点とした連携取組み等に関する意見交換会について

(1) 目的

区内大学・高校・特別支援学校を対象に、研修、共同事業、ワークショップなど教育

総合センターを拠点とした連携取組みの実績を報告するとともに、連携のあり方に関する意見交換会を行い、連携を一層推進していく。

(2) 参加者

大 学：国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、テンプレ大学ジャパンキャンパス、多摩美術大学、東京医療保健大学、東京都市大学、東京農業大学、日本大学文理学部 10大学（学部）

高 等 学 校：科学技術学園高等学校、昭和女子大学附属高等学校、成城学園高等学校、都立桜町高等学校、都立深沢高等学校、都立松原高等学校、都立世田谷泉高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京学芸大学附属高等学校 9校

特別支援学校：都立光明学園、都立青鳥特別支援学校 2校

区 側：区長、教育長、政策経営部長、教育政策部長、教育総合センター担当参事、政策研究・調査課長、区民健康村・ふるさと・交流推進課長、教育指導課長、乳幼児教育・保育支援課長、教育研究・研修課長、教育相談・支援課長

そ の 他：せたキャン（※）で活動する学生

※ せたキャンとは、世田谷の街をキャンパスとして大学の枠に捉われず、大学生研修会や教育現場・地域との連携事業などに取組む活動の形。

(3) 意見交換会

テーマ：「Win（学生・生徒）-Win（子ども・学校）の連携の実現に向けて」

〈主な意見〉

- ① STEAM教育講座を実施した大学・高校からの意見
 - ・ 大学生にとって小学生に教えることは、試行錯誤の機会となり大変勉強になった。
 - ・ 学習する意味や自己肯定感を高校生が実感できて、積極性が増したと感じる。
- ② せたキャンの学生より
 - ・ イベントの企画や大学生の研修会等を実施し、自分たちの活動が教育現場にどのように影響するかを理解しつつ、自身の成長のきっかけとなっている。
- ③ Win-Winの連携に向けた意見等
 - ・ 世田谷区の交流事業に参加したと言えれば学生にとってメリットがあると思う。連携事業として生徒にとっても Win-Win の関係を見つけないかと思う。
 - ・ コーディネーター制度は、世田谷区のニーズを集めて提示いただいたうえで大学からの資源を提供でき、とても役に立つ制度であると思う。
 - ・ 大学生がプロジェクトを実施する際に、様々な方と交流する中でよりレベルアップが求められるため、社会と関われる場は学生が磨かれる良い機会となっている。
 - ・ 発表の場が高校生たちの力を伸ばすので、機会を設けていただきたいと思う。